

元気おおとよは、
大豊町を元気にしたい人が集まった
民間の団体です！

2015 夏号

元気おおとよ新聞

発行元：特定非営利活動法人 元気おおとよ <http://www.genki-otoyo.org> 平成27年8月1日発行 No.9

新理事長 あいさつ

ーフェイス to おおとよー

理事長 下村守正

3年目を迎えた当「NPO法人元気おおとよ」。

大豊の自然や環境、そしてここでの生活に魅力や誇りを持ちながらも、厳しさのつる現状の中、「大豊町の今後や将来に向けて自分たちの手でやれることはないか」との思いを持つ有志で立ち上げた法人です。以前から大豊に住んでいる方やアイターンやユーターンの方々の集まりで、現在、大豊町総合ふれあいセンターの隣の旧大豊開発の二階を事務所にお借りして活動を進めています。

この度理事長の役を引き受けさせていただきました。「大豊を元気に！」を合い言葉に、大豊に熱い思いを馳せる若い方々の背中を少しでも押すことができたかと思っております。どうかよろしくお願いいたします。



さて、表題にカタカナと英語と日本語の混じった言葉をあげましたが、就任時に浮かんだ言葉で、「ふるさと大豊を真正面からまっすぐに見つめ考える」という意味です。この言葉の持つ意味を基本姿勢に、みんなで課題に向けての方策を探り、それを共有しあい行動や活動につなげ、それこそ1ミリでも大豊が前に進めるよう努力していけたらという願いを込めた言葉です。

次に、今後めざしたい内容をいくつかあげてみます。➡



残す

- ・人口減少が加速される中、移住促進を進める。通常の移住に加え、定年移住や町外在住の町出身者も対象にする。
- ・大豊の自然や文化、環境や景観、そして、衣食住の生活の技を守り伝える。
- ・地球温暖化に関心を持ち、学習し、行動に移し、よりよい地球環境を次世代に残す。
- ・男女の出会いの場を設ける。



つどう

- ・老若男女、集う場や機会を設ける。
- ・市（農作物、食品、工作物、中古品、図書、募金バザー、など）
- ・つどい（イベント、大会、作業、飲食会、学習、講演、など）



お互い様

- ・相互の助け合い、支え合い活動やボランティア活動のよびかけや体制づくりを行う。



移住促進などを中心に事業を進めていますが、今後、具体的な取り組みを「元気おおとよ新聞」などでお知らせしていきます。

どうかよろしくお願いいたします。

【レポート】間伐体験ワークショップに参加して



先日（今年3月22日）、「森や木の役割について学び、森林の価値を見出すきっかけ作り」を目的に、林業のスペシャリスト三谷愛敬（ヨシユキ）さんと共に、大豊町久寿軒で間伐体験ワークショップを行いました。天候不良が続き、順延を繰り返していましたが、当日は気持ちいい位に晴れて、間伐にはもってこいの天気でした。

この日行ったのはヒノキの若林と50年生近い杉の間伐。まず午前中はヒノキの若林に向かうことになりました。そこで愛敬さんから森林状況の説明、どういった木を間引くか、チェーンソー等の道具の扱い方、倒れる方向や受けの取り方等を教えてもらい、また愛敬さんのお手本を見ていざ間伐開始。しかし、やはり聞くとやるでは大違い。間伐未経験者ばかりでチェーンソーの使い方に慣れておらず悪戦苦闘。またヒノキの植林は枝も張っており、思うように木を倒すことができません。

それでも少しずつながら上達していき、間伐の手入れが済んだ森林には日の光も入り明るくなります。

午後からは少し場所を移して、杉の木の間伐に挑戦しました。先ほどのヒノキと違い大きさが桁違いです。しっかりと受けを取らないとあらぬ方向に倒れ大変なことになります。こちらまずは愛敬さんのお手本を見せてくれました。やはりプロは技術が違います。決めていた方向に大木が見事に倒れました。その後は自分たちも愛敬さんの手を借りてぎこちないながらも間伐していきますが、ヒノキと違い、勢いよく倒れる杉は爽快感や達成感を味わえました。

普段から山や森林は身近な存在だと思っていましたが、間伐などの経験はあまりなかったので今回のワークショップは貴重な体験となりました。（賢）



空き家をご紹介します！！

貸したい・売りたい
空き家を大募集！

元気おおとよでは、大豊町役場から委託を受けて、大豊町へ移住を希望される方を支援する「**移住・定住支援事業**」を今年6月から開始しました。

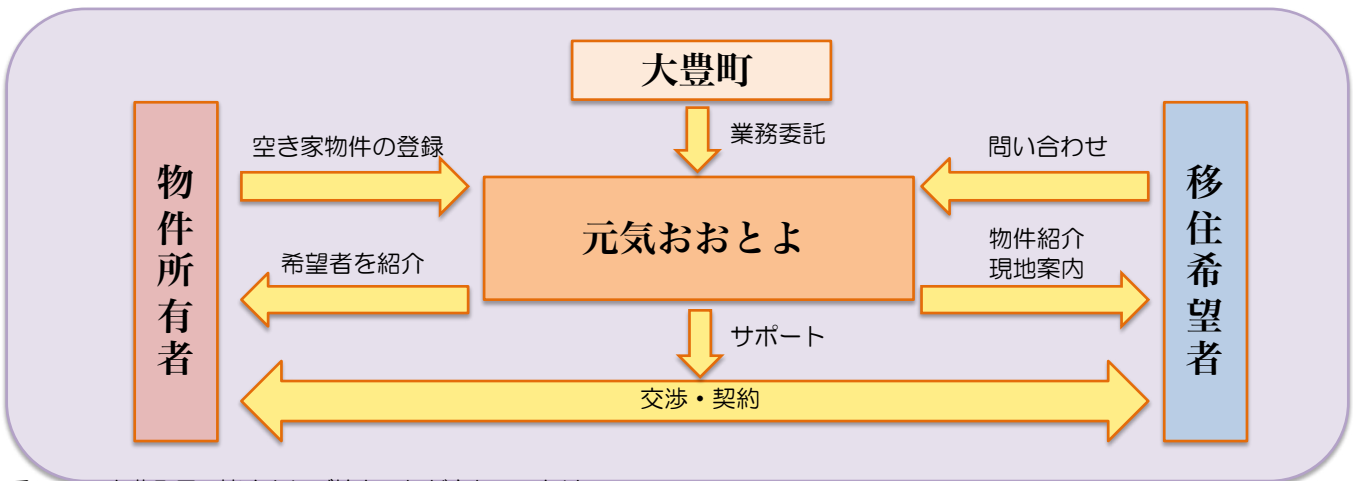
近年、特に3.11以降は **都会から地方への人の流れは年を追うごとに活発** になっています。
現在では全国の市区町村が先を争うように移住や定住の支援やサポートを充実させて、人を呼び込もうとしています。

大豊町を含む嶺北地域には、この **3年間に100組を超える人々が移住** しています。
これは四国の中でも、とても多い数字です。

私たちがこの業務を始めた6月10日からの1ヶ月だけでも、**移住希望者からの問い合わせや現地視察が9件** ありました。
そのうち **1件は7月中に転入** されてくることがほぼ決まっています。

このように、**大豊町で暮らしたいと考え、実際に移住を検討する人は少なくありません。**

さて、元気おおとよが担当する「移住・定住支援事業」の主な内容は **①空き家の発掘 ②移住希望者への紹介** です。
図であらわすと以下ようになります。



そこで、大豊町民の皆さんにご協力いただきたいことは、

貸してもよい、売ってもよい『空き家』をご紹介します！

以下のような空き家でも、まずご相談ください。

- **壊れている部分があり修理が必要** …… 修理は入居者負担、そのかわり家賃を安くしてあげてください！
- **家の中に荷物が入っている** …… 荷物の片付けについて、ぜひご相談ください！
- **巻き風呂や木製サッシなど、家が古い** …… 多くの移住希望者はそういう家を好んで探しています！

大豊町のホームページでは、「移住支援情報」で以下のような写真を掲載して空き家を紹介しています。

移住希望者はこれらの情報を見て、問い合わせをいただきます。（アドレス：<http://www.townotoyo.kochi.jp/akiya/>）



数多くの物件を紹介して、たくさんの人を町内に
呼び込みたいと考えています。受付窓口はこちらです。
ぜひご協力をお願いいたします！

電話 **080-8635-2253**

担当：野田

受付 9:00~19:00